



暑中お見舞い申し上げます

令和七年七月 んそ@Kani_Hitsuji

写真：んそ撮影

さんそ@Kani_Hitsuji

コンビニに手持ち花火が並んだら今年の夏は海に誘おう
キャンバスを塗り分ける薄青と青 美術部室で潮騒を聞く
足首を濡らしたら夏 聞き分けの良さと靴下脱ぎ散らかして

〔夏祭り〕

赤い飴まとう林檎は甘くない紅いグロスの口が共食い

薄く汗浮かんだ肌に手のひらは焼きごて だから拳を握る

透明な袋に小赤三四匹を数えてうつす節ばつた指

汗ばんだ顔が夜店に照らされて頬は艶めく熱に浮かされ

トロ舟の赤、青、黄、緑、紫 水風船は透明が好き

喧騒が星の光も虫の音も覆い隠して祭りは進む

宵闇に手のひらふたつ持ち寄つて火傷させあう 手を繋ぎましょう？

りんご飴水風船をぶらさげて堤防道路を流されてゆき

流れ星あつめて丸めて火を点けた。そう言われても信じるだろう

皆が皆空を見上げるその隙に左隣に降ろした視線

三尺の星がはじけて消えるまで君のくちびるあいたまんまで

カラコロと下駄の音まで寂しくて花火の後はゆつくり歩く

さんそ@Kani_Hitsuji



イラスト素材：Canva (@sketchifyjapan)



「君に初めてをあげたかった」

国産の線香花火取り寄せて君に初めてをあげたかった

僕たちが作るドームの内側でふたつ並んだ線香花火

写真：さんそ撮影

イラスト素材：Canva (@domkadigitaldesign,@canva-layouts)